

〔野菜・作物の優良品種の選定と育成〕
ナスの着果周期とその品種間差異

田邊範子・小寺孝治・澁澤英城・沼尻勝人
(園芸部)

【要 約】 最近のナス品種における生育や収量特性を把握するとともに、時期別開花数や着果習性などを調査した。その結果、ナスの開花数は栽培時期によって増減が見られるが、その後の結果率は品種によって異なり、各品種の生育特性、着果負担などを把握し、品種に応じた整枝・剪定管理が必要となる。

【目 的】

最近ナスは直売用として多様な品種が導入されている。古くからナスには着果周期のあることが知られているが、直売では安定した収穫果数の確保が望まれる。そこで、最近の品種における生育や収量特性を把握するとともに、果実特性の異なる品種の時期別開花数や着果習性などを調査し、適切な植え付け株数や整枝を行う上での基礎資料とする。

【試験方法】

品種は‘千黒2号’他11品種を用いた。台木‘トレロ’を1月6日、穂木は1月27日に播種を行った。接ぎ木は3月4日に行い、3月13日に鉢上げを行った。定植は4月25日に条間210cm、株間70cmで行い、定植後から5月2日までエラックのトンネルを行った。元肥にはツグ 424、有機配合などを用い、成分量(kg/10a)でN:20、 P_2O_5 :24、 K_2O :20を施用し、追肥は7月上旬から9月中旬までN:3、 K_2O :3を3週間に1回ずつ行った。整枝は側枝1花止めとした。5月中旬～10月上旬まで開花調査、11月中旬まで収穫調査を行った。

【成果の概要】

- 1) 図1-①に‘千黒2号’の2003年および2002年の収穫果数の推移を示した。昨年は間引き剪定を中心に整枝したが、両年とも同じような3つの収穫ピークがみられた。②～⑥には5品種の旬別開花数・収穫果数・落花数の推移、⑦⑧に気象データを示した。開花数はいずれの品種も3つのピークがみられた。収穫果数は比較的開花数に追従しており、標準的な‘千黒2号’では1～2旬後、大きい‘くろわし’は2～3旬後、小さい‘民田’では1旬後に同様な形で推移したが‘水茄’は大きな増減を示さず、ほぼ一定の収穫果数を示した。落花数は8月上旬と10月上旬で高くなるが、‘くろわし’は常に高かった。気温の上昇とともに枝が伸長し、開花数は理論上増加すると考えられるが、すべての品種において開花数、収穫果数は増減を繰り返していた。これは、担果数の増加に伴い着果負担が大きくなることや、連続的な降雨や日照時間の低下などの様々な要因により開花数は制限され減少し、それらの要因の解消とともに増加したと考えられる。
- 2) 表1にナス12品種の品種特性を上物収穫果数の小さい順に示した。1果重の小さい品種ほど収穫果数は多くなったが、長ナス系の品種は果数が少なく、上物重が低かった。‘水茄’は結果率、上物率ともに高く、上物収量が最も高かった。
- 3) 以上、ナスの開花数は時期により増減が見られるが、その後の結果率は品種により異なり、各品種の特性、着果負担を把握し、品種に応じた整枝・剪定管理が必要となる。

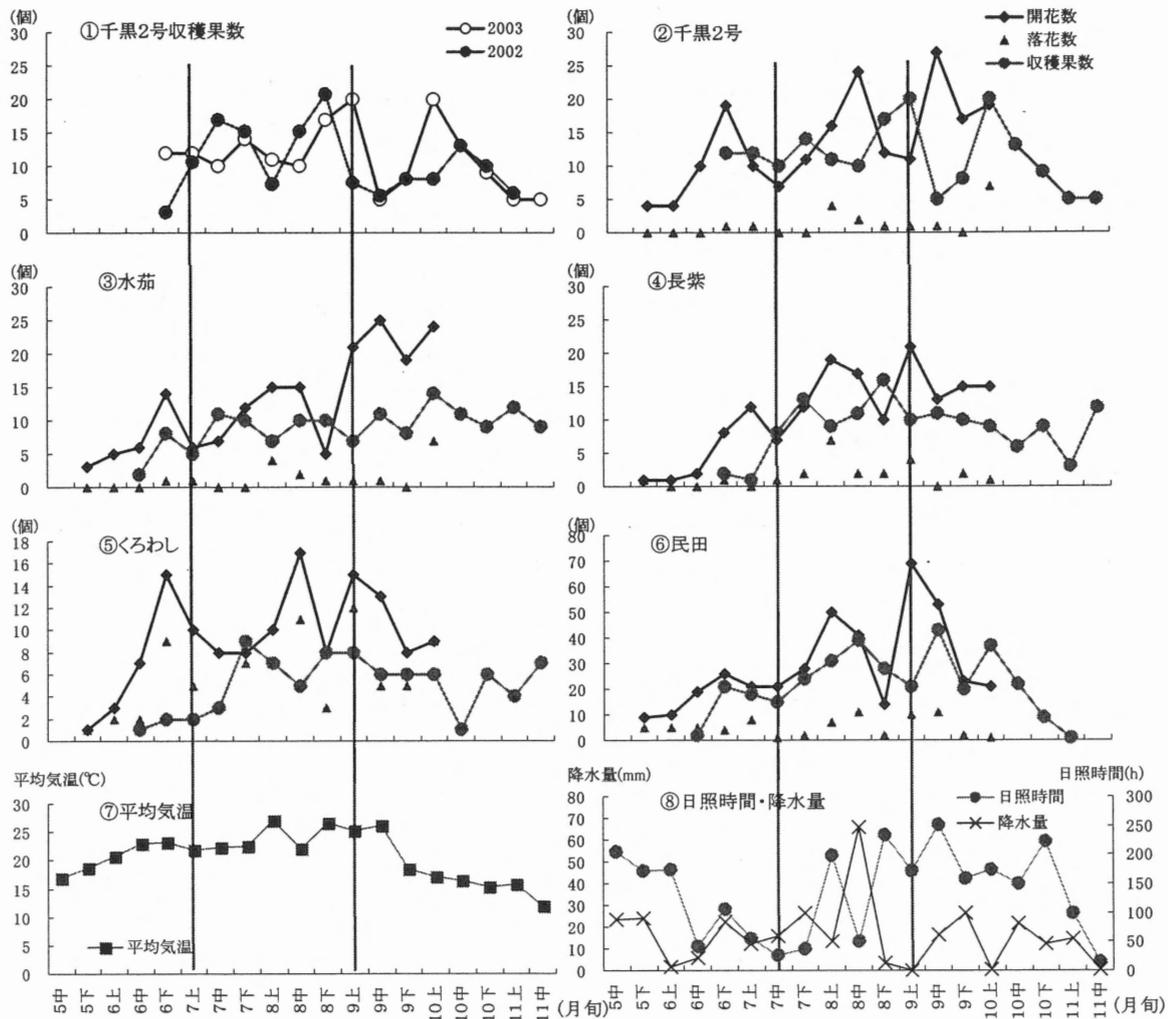


図1 ナス主要5品種における旬別開花数，落花数および収穫果数の推移

表1 ナス12品種の生育および収量特性

品種名	上物 (個)	上物収量 (g)	上物率 (%)	1果重 (g)	結果率 (%)	収穫まで日数			生育	
						(平均)	(最長)	(最短)	(草丈)	(節数)
万寿満	68	8567	60.4	126	73.0	18.3	41	8	192	44
白ナス	68	8226	70.1	121	57.4	22.2	38	8	204	46
くろわし	68	18726	84.0	275	65.3	24.9	51	13	238	50+
庄屋大長	70	8598	56.5	123	80.5	19.9	41	11	281	50+
早生大丸	70	12739	50.7	182	64.5	23.0	48	12	248	46
長紫	77	8957	56.5	116	76.1	20.0	43	10	284	50+
紫水	90	14560	68.7	162	77.1	22.5	55	9	254	47
山紫長	93	11460	54.1	123	72.9	21.9	48	12	258	49
黒光	95	10596	76.6	112	84.4	20.2	41	8	248	50+
水茄	117	15143	81.3	129	80.9	20.3	42	10	246	48
民田	224	7420	68.3	33	79.8	12.1	29	6	240	50+
千黒2号	130	14748	76.2	113	95.6	18.1	40	11	272	44